

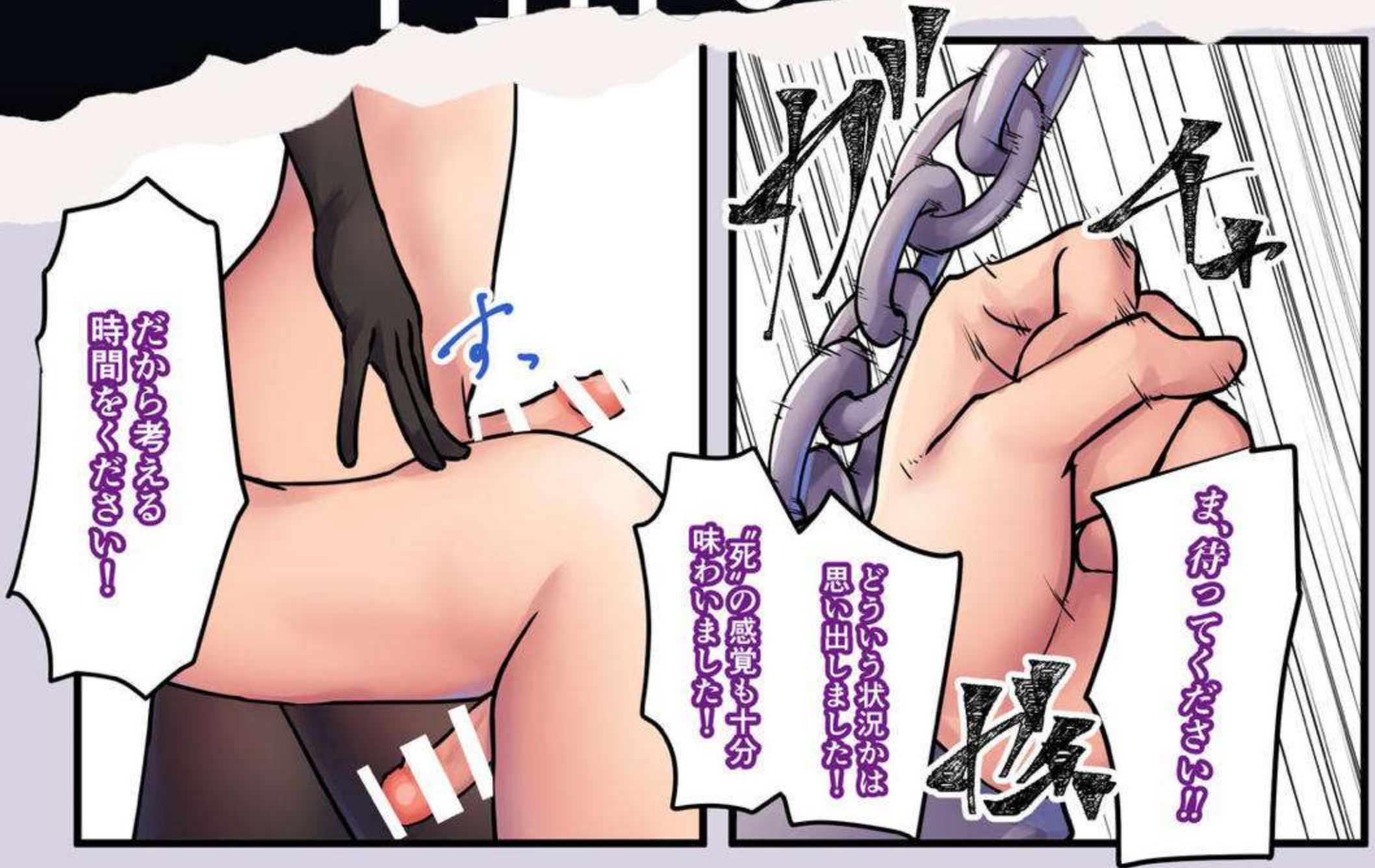


1

Full
Color

♂R18
♀
contains
Futanari

内在の海





ずいっ♡

えっ♡

そのっ…は…
おっひ…

だ、ダメだ…

やっぱり体に力が入らなくて
ろくに抵抗ができない…

びっ

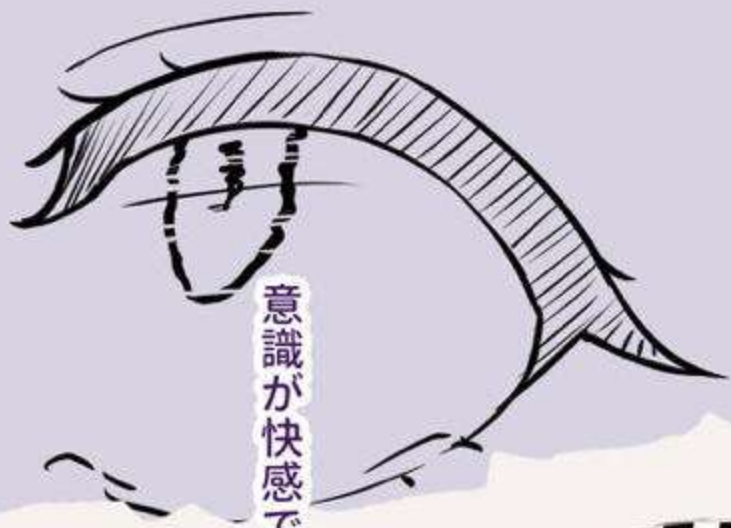
好き勝手にされる
………

はっ

はっ







意識が快感で塗りつぶされた瞬間、

再び視界が闇に覆われた。

同時に身体中の空気が水圧に押しつぶされ、体から逃げていく。

まるで巨人に握りつぶされでもしたかのような激痛に快感の余韻も刹那の意識も弾き出される。

肺に空気があれば、息を失って溺れる事に構う事なく、力の限り叫んでいただろう。

だけどその意に反して、海水が体の中のありとあらゆる隙間を埋めるべく侵入してくる。

もはや筋肉一つ動かす事が出来ない。抵抗する術などあるはずもない。

あるのは絶え間ない激痛と失くしていたと思っていた記憶の走馬灯。

そして、自分の目の光がこの暗闇に吸い込まれていくという、見えるはずもない他人事のような光景だけ。

“C”omplex Concert



ここじゃないと私の伝えたい事「消化」出来ないでしょう？

なんでもさっきからそっか……

答えが欲しい
答えを見つけれられるだけの力が欲しい

その為には自分とは何かを知らなきやいけないと葵さんに
そう言われて

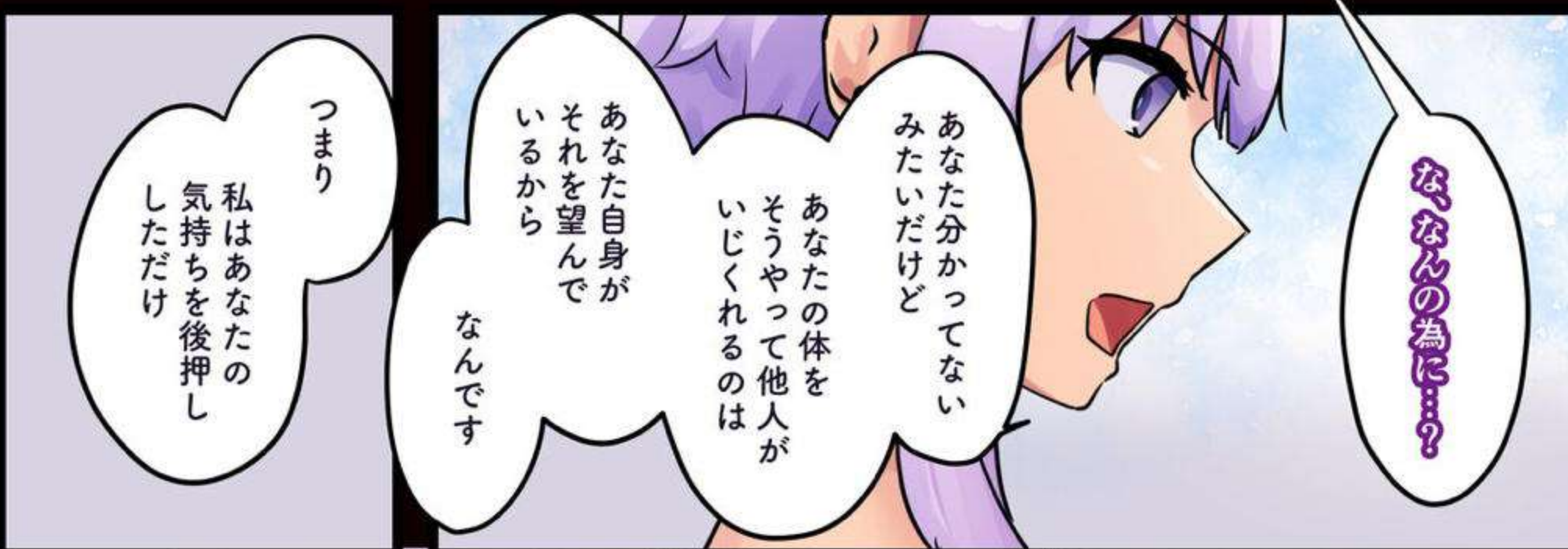
好都合だと思った
一石二鳥だと

ちんぽに腸壁がふわふわと擦れて最高ですう

でも……
これが私の本質……？



そういえば
これにふたなりに
された時に言っていた
事……





おっとう?
急にちんちん
昂ってきましたよ

認めたんですね!?

ふたなりちんぽが
欲しかったって!



そうですよね!

非日常が
欲しかった!

もう一つの秘密

それは...

エロ本を見て
羨ましいと
思った!

感覚を誤認して
しまうほどで

生えてからは
自分から気持ち
良いことを
進んでやった!

それが偽りのない
真実だってあなたが
一番分かっている!



もつともつと
素直になるように

いっしょつぱい
腸内射精して
あげますからっ!

ポ
ポ

ちゃんっ!

消化する
んですよ!!



良い子です

思ったより早く
素直になって
くれていて

ゾクゾクしてきます

暗闇の中、目を開ける。

当然何も見えないけれど、何より驚いたのはまだ死んでいないという事。

まだ痛みに襲われていないという事。

四肢を動かしてみると重い抵抗を感じる事からまだ水中にいる事には変わりないようだった。

息をしようとしても肺から一方的に空気が出て泡が形成されるだけ。

息が切れれば死ぬ。そしたらまたあれの相手をしなきゃいけない。どうせまた性行為が始まる。

せめてそれまでに何か手がかりを見つけないければ……

何度もイカされてきたけれど、今回変わったのは自分がぶたなりを望んでいたのを認めたと事と、腸内射精された事くらいだろうか。

「消化」という言葉を使っていたくらいだ、変な話だけど腸内射精も何か関係があるかもしれない。

とはいえ、何か直接思念を送り込まれた訳でもない。「言葉では説明できない」と言っていたからにはそんなことをしてくる可能性も否定できなかったけれど……

必死に息を止めていたけど、次第に胸の締め付けが強くなってきた息を欲する余り嗚咽に似た気持ち悪さがお腹の中で煮えて来た。

もう頭の中は「目一杯息を張りたい」という欲求で埋め尽くされてしまった。

やがて

少しずつ

意識の灯火が

消えていった。



とっとうと……

受け入れた……

受け入れたのに……

あとは何があれば……

考えるんです……

どうしてこれは
こんな事を
しているのかを



おはよう おはよう



ああ

やっぱりゆかりさんの
アナルおまんこ最高に
気持ちいいです

腰振るたびにちんぽに
女の子精液ミルク充填
されていきます

ぽん

ぽん

ぽん

くっ...



こんな事を私は
絶対に言わない
絶対に言わないっ!

こんな...まるで飢えた
子供が必死にご飯を
頬張るが如く性を貪る
なんて事は...



あれ...??

も、もしかして...



お

...しまった
気を抜いた



おや?

なんです?
一人でイッチャった
んですか?



ま、ま、ま、ま、ま

このまま意識が
飛べばまた逝く
事に...っ!

おお

出ます出ますっ
掘れば掘るほど
精液出てきますね!



まだこんなにつ!

溜め込んでいたとは!

やはりゆかりさんは
えっちでスケベですね!!

お、お、お

ぽん

ぽん

ぽん

いつの日からか
欠けてしまった
私の何か。

まるで心に穴が空いたようで、
虚しさ、
苦しさ、
痛みが
込み上げてくるばかりだった。
何を失くしたかも分からない
のに、
それを取り戻そうと、
飢えに似た感情を癒そうと、
必死になっていた。

友達といれば、
一緒に遊べば、
その痛みも忘れられる気がし
たけれど、でも逆に悪化する事
もあった。

唯一、マキさんと居る時が安
心して忘れられる時だった。
欠けた部分を埋めて貰えた
気すらした。

でもそれはっ…
根本的な解決じゃない

本当は自分の
問題なのを

他人に押し付けて
逃げていただけ

自分と向き合うのが

恥ずかしくて

怖いからと



あなたは
きつとそれを
欠けた物が
何であるかも

ずっと叫んでいら
その叫びが
痛みになって
いた

それなのに私はあなたの
言葉を聞こうとしなかった
聞こえていなかった

でももう覚悟は
出来ました

恥や苦しみ
痛みや真実を


受け入れる覚悟が

だから

思いっきり
来なさい!!!

でっ





最初から
思っきり
言ってましたって



ようやく気付いた……

欠けてしまった物、

失くしてしまった物、

忘れてしまった物……



愛

I

それは

アイ

i

昔は夢があった。
熱意が、野望が。

けれど生きていく内に自分の
のちっぽけさを実感した。
骨身を削り、足掻き、努力し
ても私など必要ないと世界に
囁かれている気がしていた。

居ても居なくても二緒。

今日消えようが明日消えよう
が二緒。

そうして「自分」という物が
次第に負の概念に変わっていき、
Iの二部だった夢も熱も死
んでいった。

Iが欠ければ「愛」も失われ
る。

なぜなら愛とは、
「Iが存在している」と認めてく
れる物」
だから。

時空さえも超える、不可思議
で神秘的な物なんかじゃなく、
そういう単純で泥臭い物が愛
なんだ。

だから愛があれば灰色の世
界の水圧に立ち向かう力を得
られるし、自分が捉える世界を
変える事だって出来る。

だから失えば自分が今立つ
足場さえ崩れていく。

平方根・根源
そんなIと愛の「root」が、

Identity

世界にはかり目を向けて、答
えを求めて忘れてしまった、

Identity
私を私たらしめる物。

虚構
「imaginary」なんかじゃない。

現実
確かに存在する「real」と共
に世界を記述する単位。



欠けたまま
失くして
忘れてしまった
私の「アイ」。

私のもとに戻ってきて欲しいなんておこがましい事は言えない。

でも今の私なら、
欠けた「アイ」を築き直した私
なら、

あなたに欠けている「現実」
を与える事ができるから、



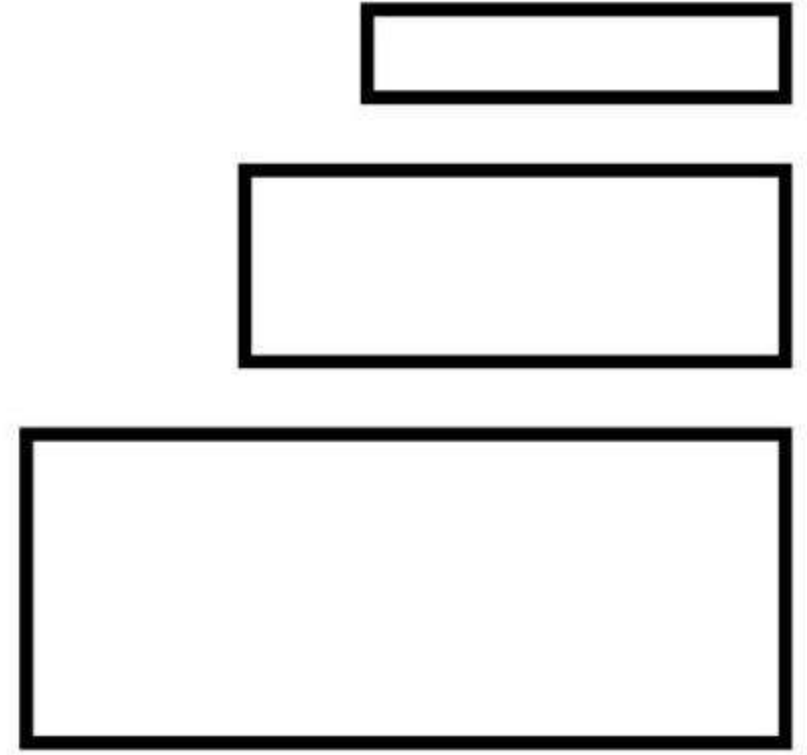
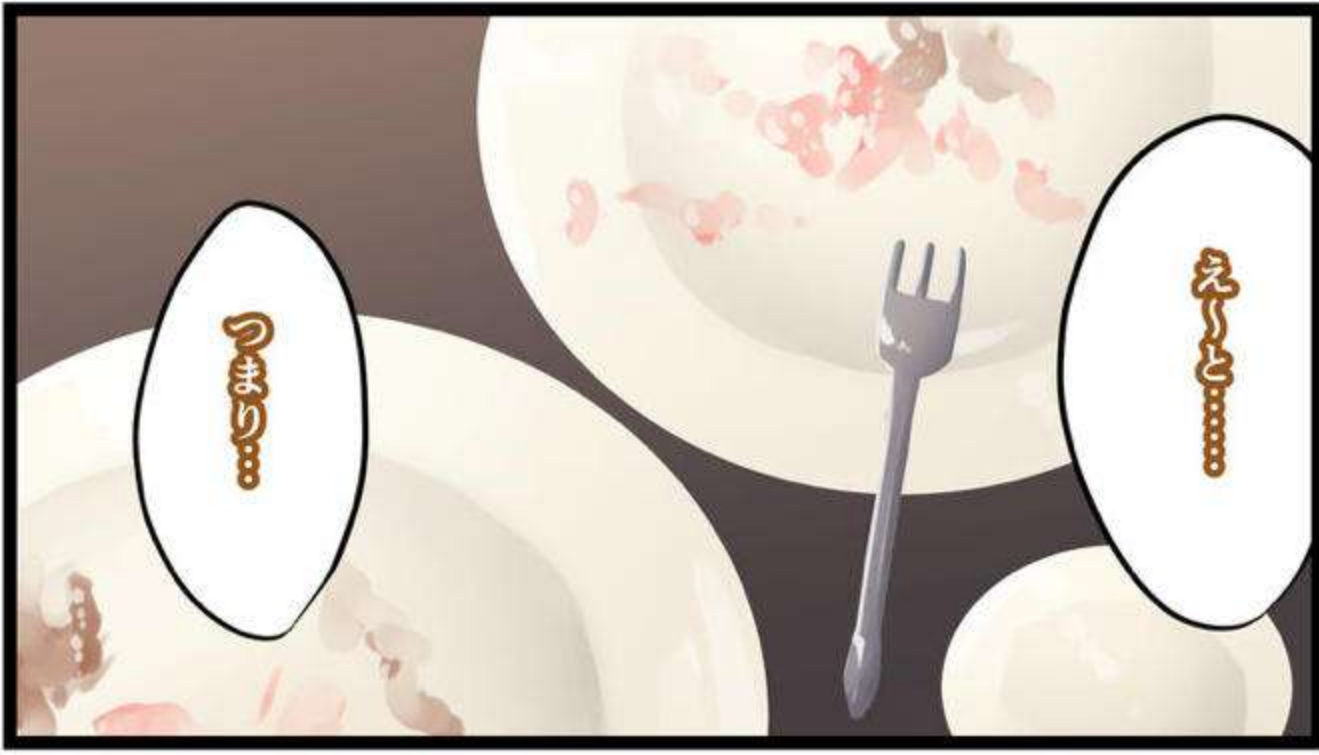
謝りたい事も、
言いたい事も、
伝えたい事も、
沢山あるけれど、
これからはもう一人にはしな
いから、

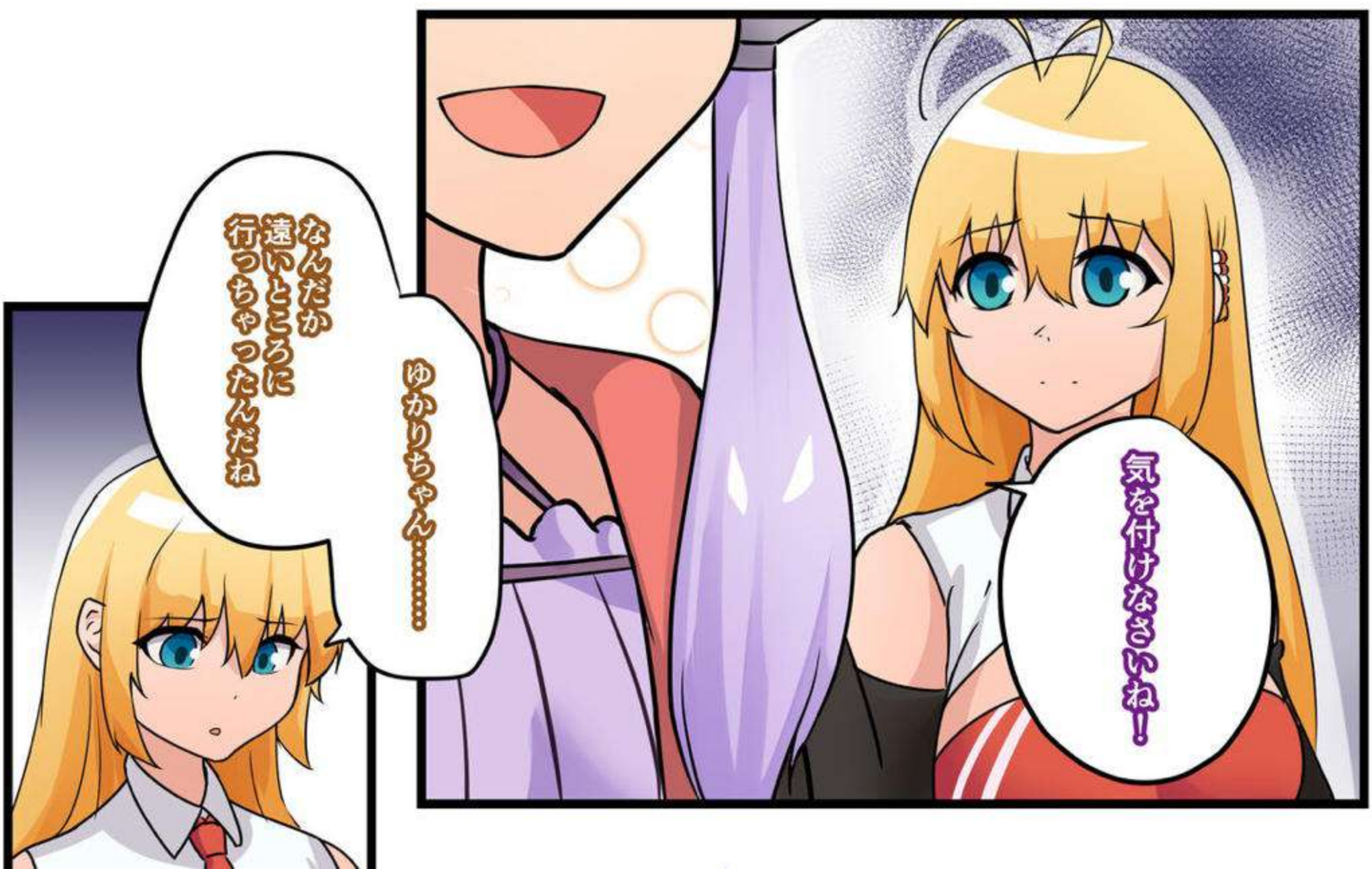
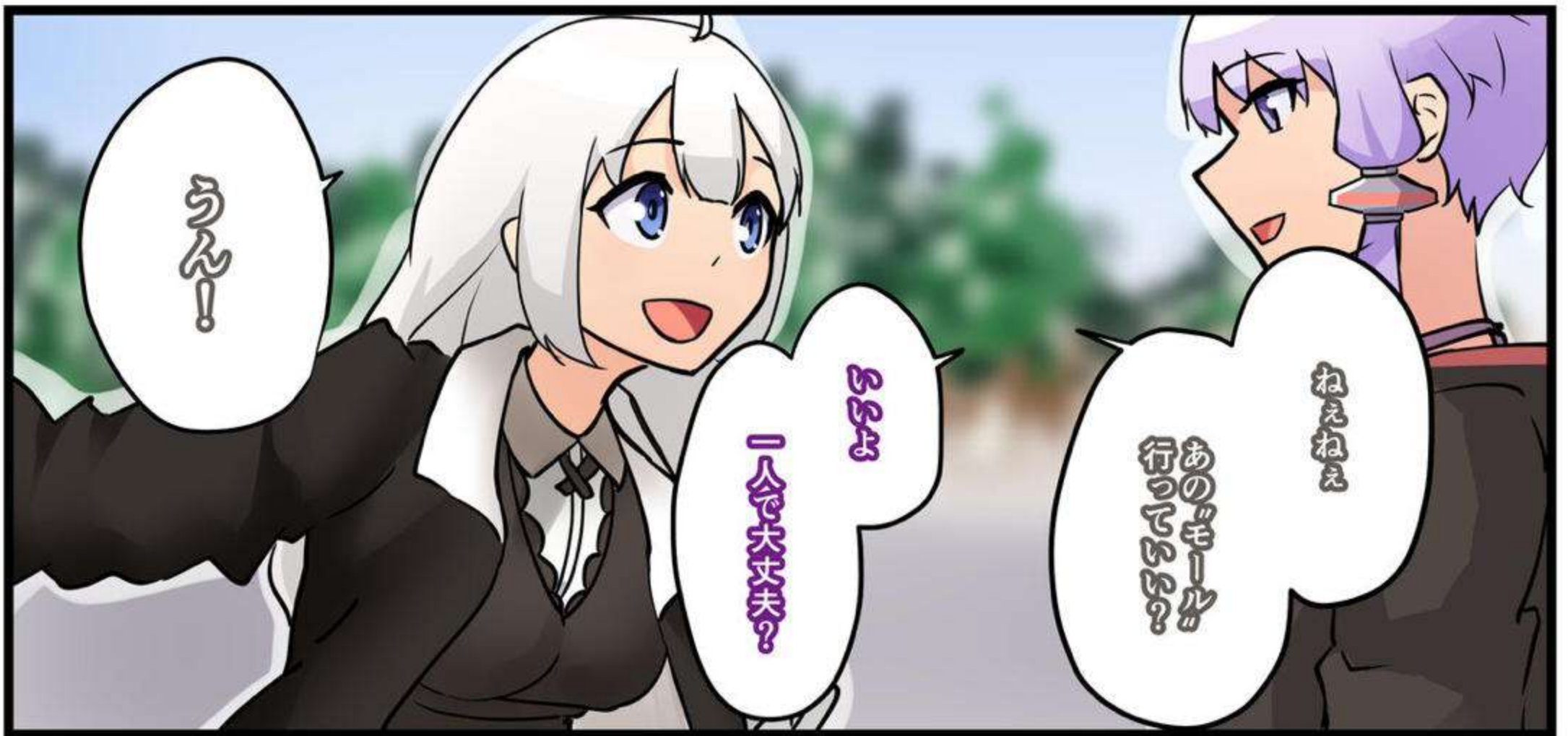
こう声を掛ける事を許して欲
しい。



あかり

一緒に帰る







えん!!?

目を閉じて
ください

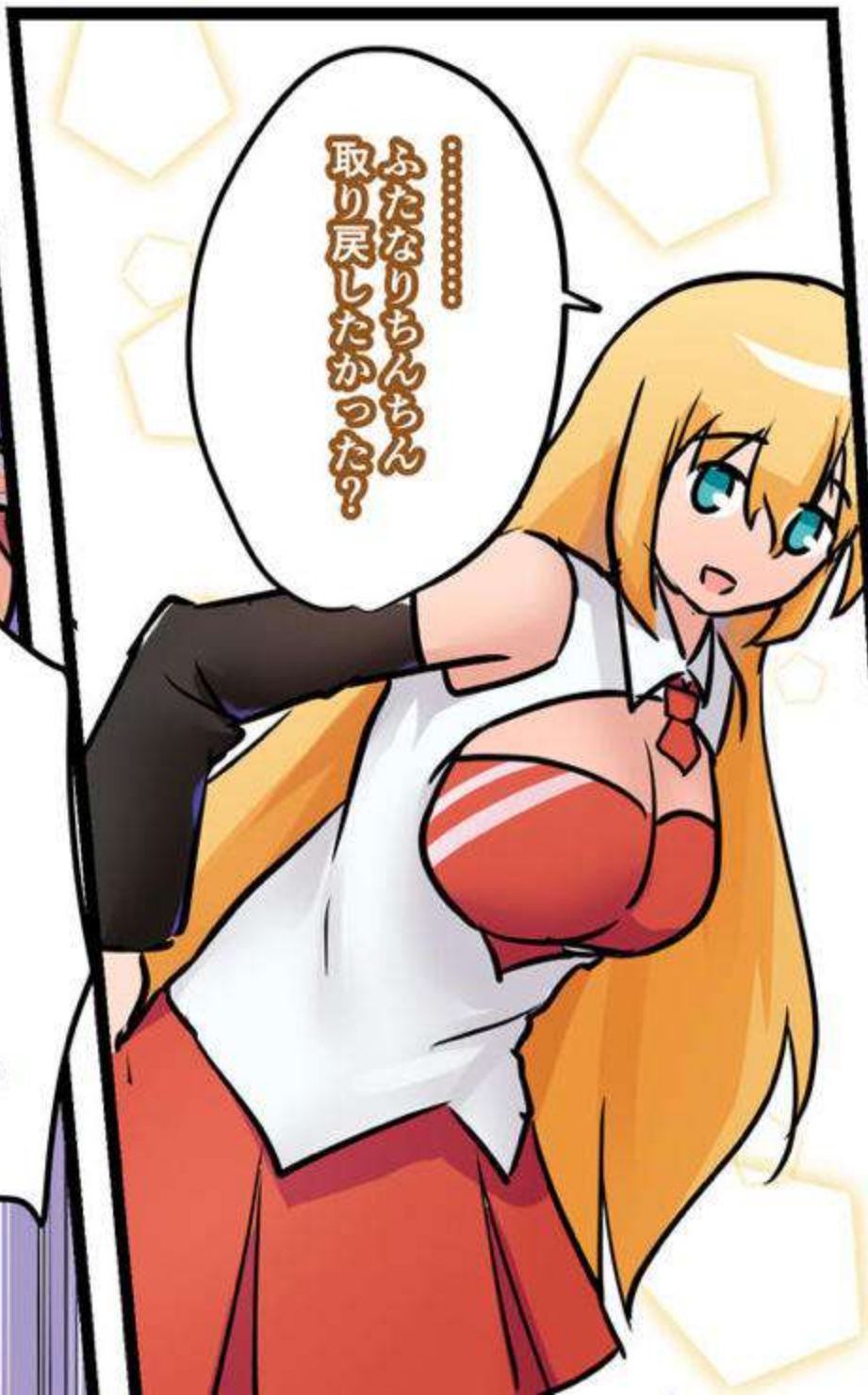
うわっ

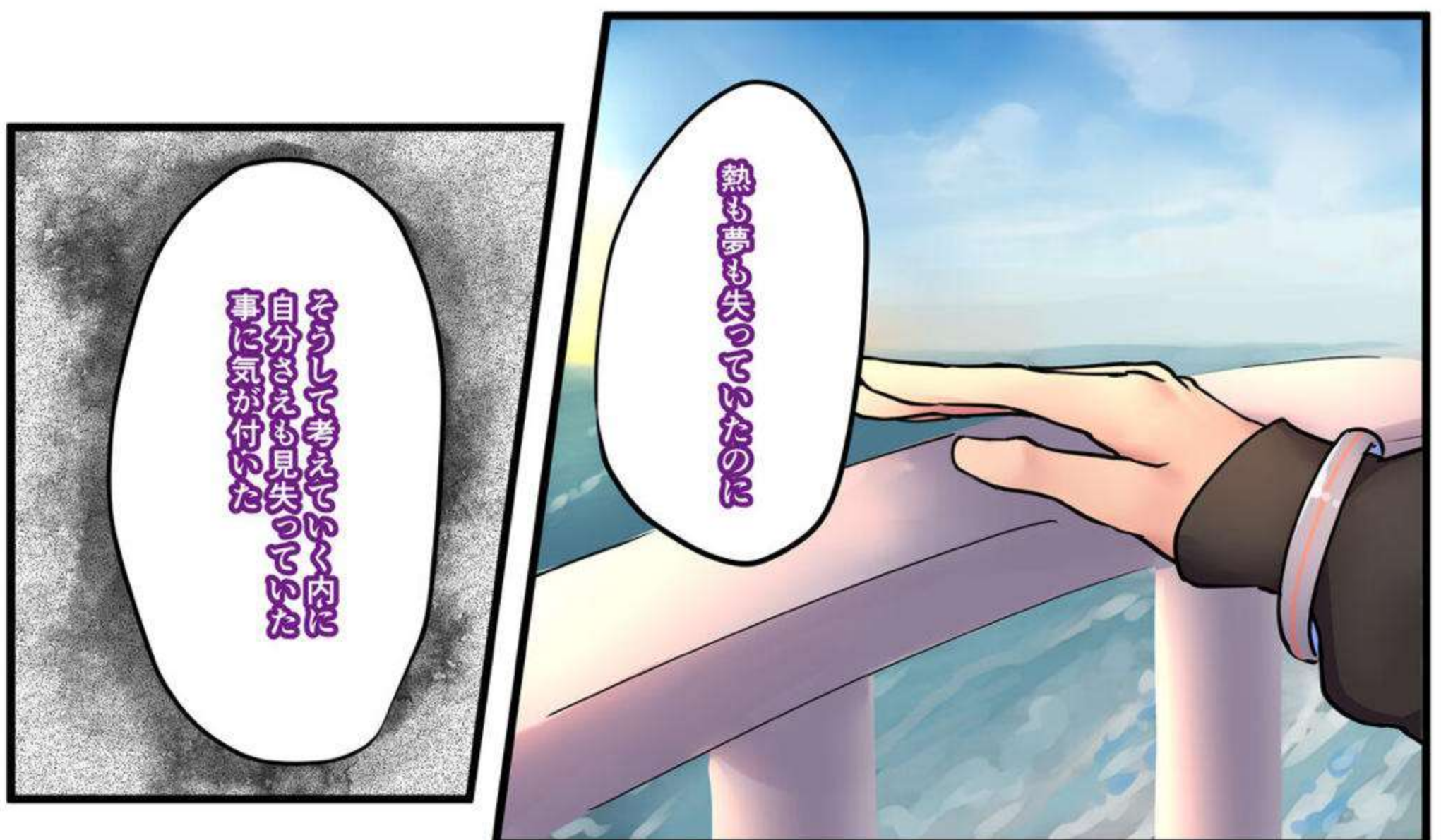
マジかよ

閉じなくても
やりゃありますよ

わわわわ

ぱん







でもある日

ゆかりちゃん
何か面白の本
見つけた？

まあ大声で
自慢できるような
キツカケでは
ありませんが！



毎日に熱を感じた

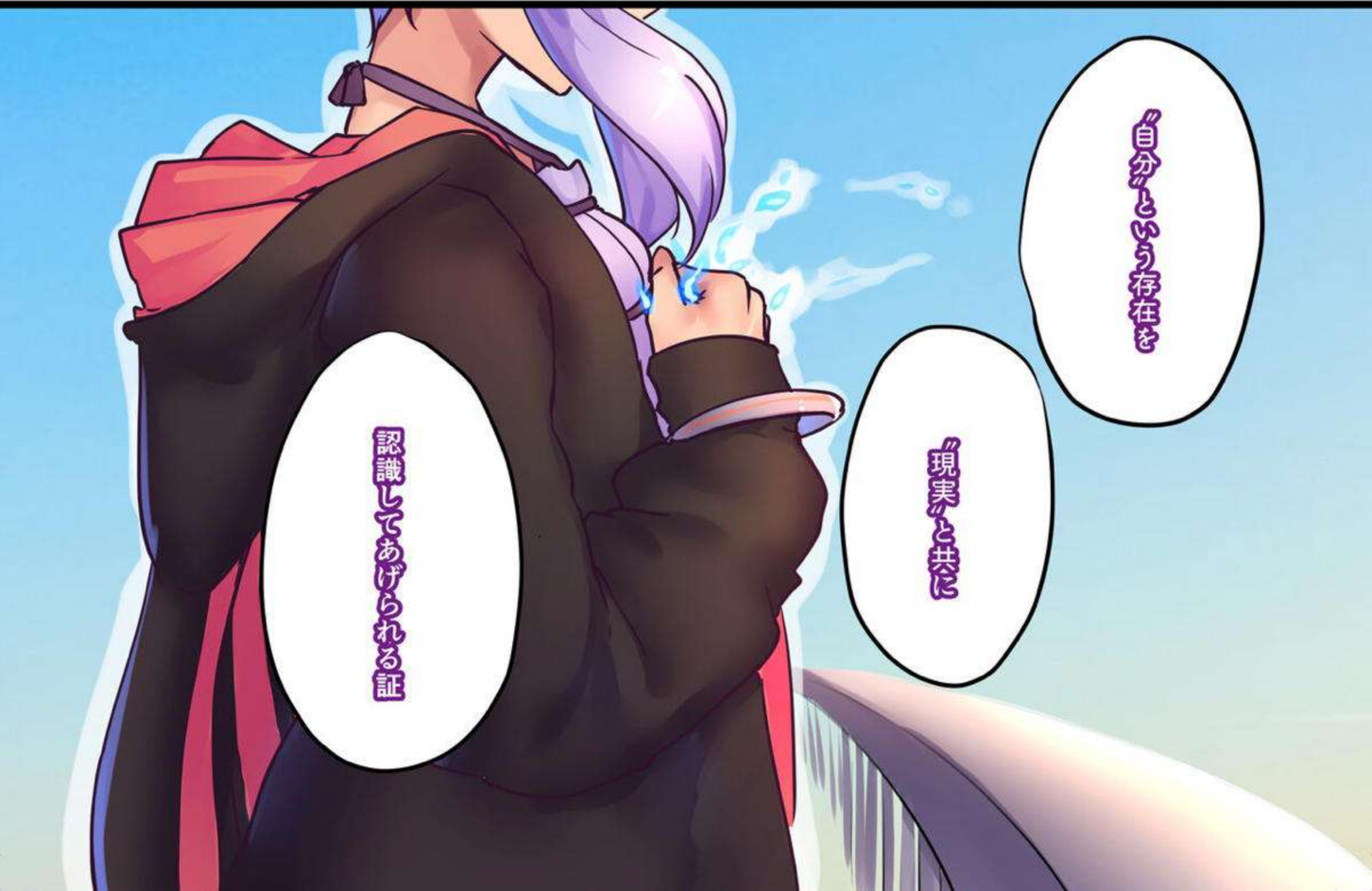
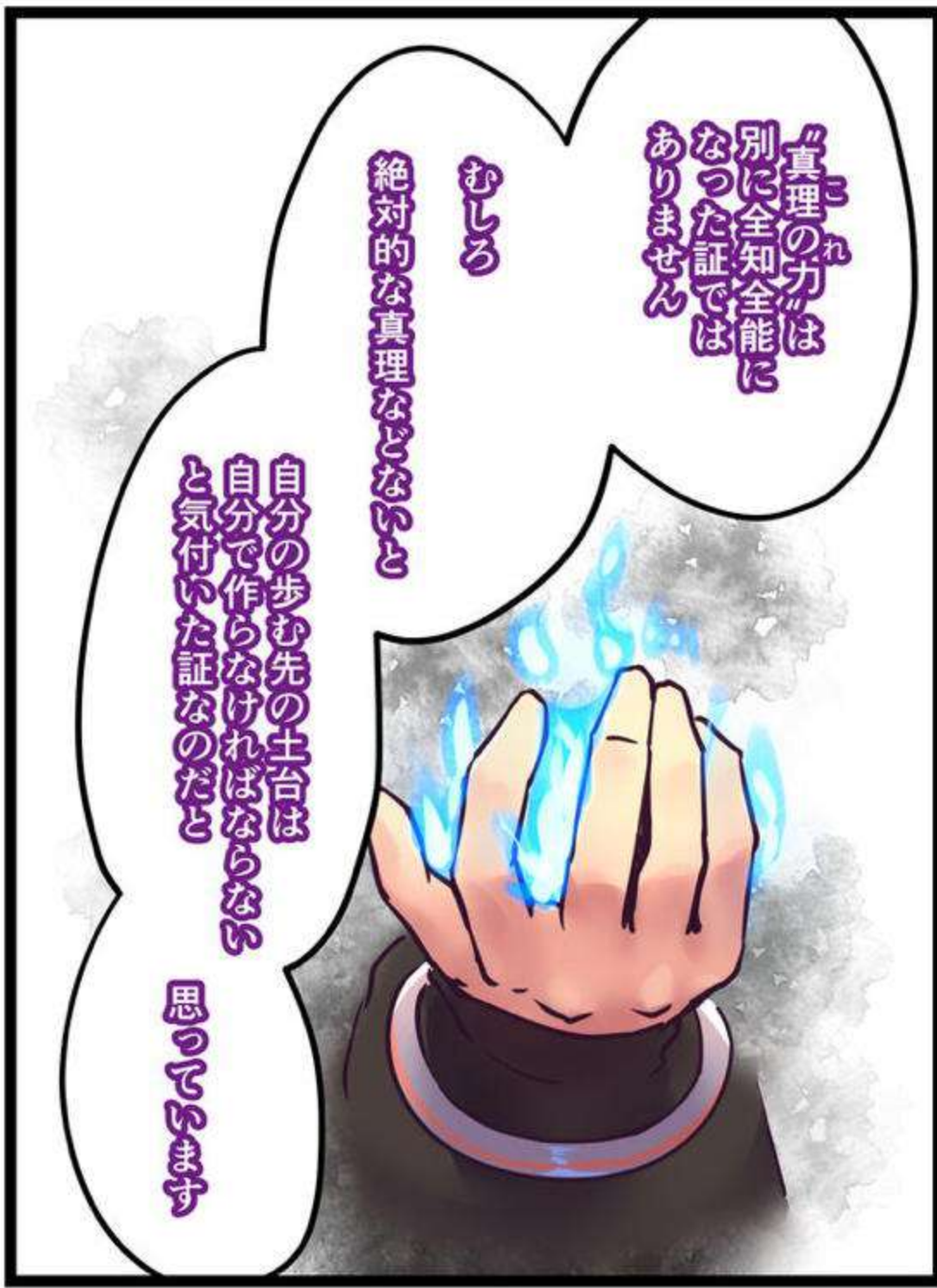
色が見え始めた



正直余計混乱しました

これは人工的なもので
儚い虚構なのではないかと

そして余計
何も分からなく
なってしまうた



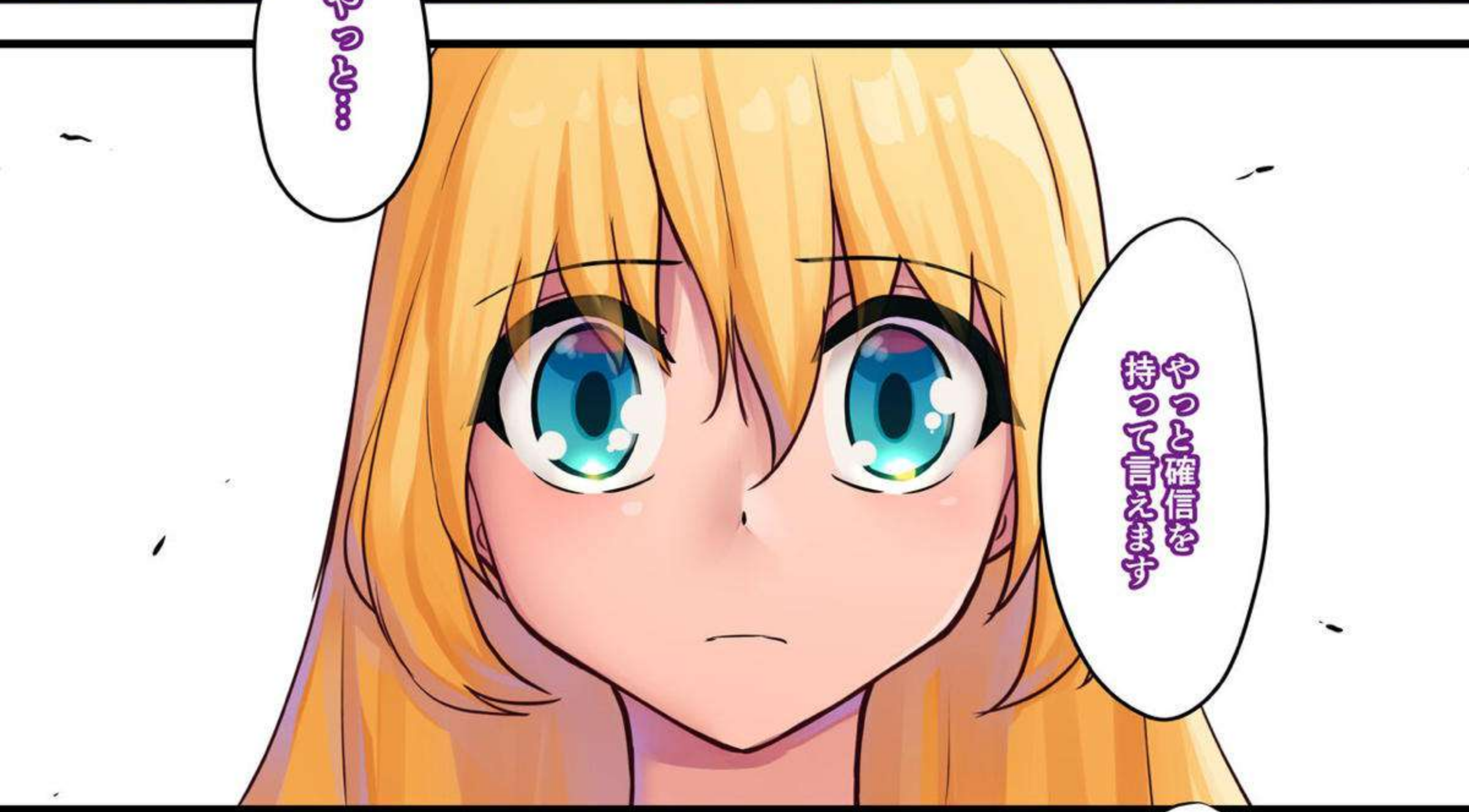


これを手に入れても
まだ分からない事だらけ

でも一つだけ…

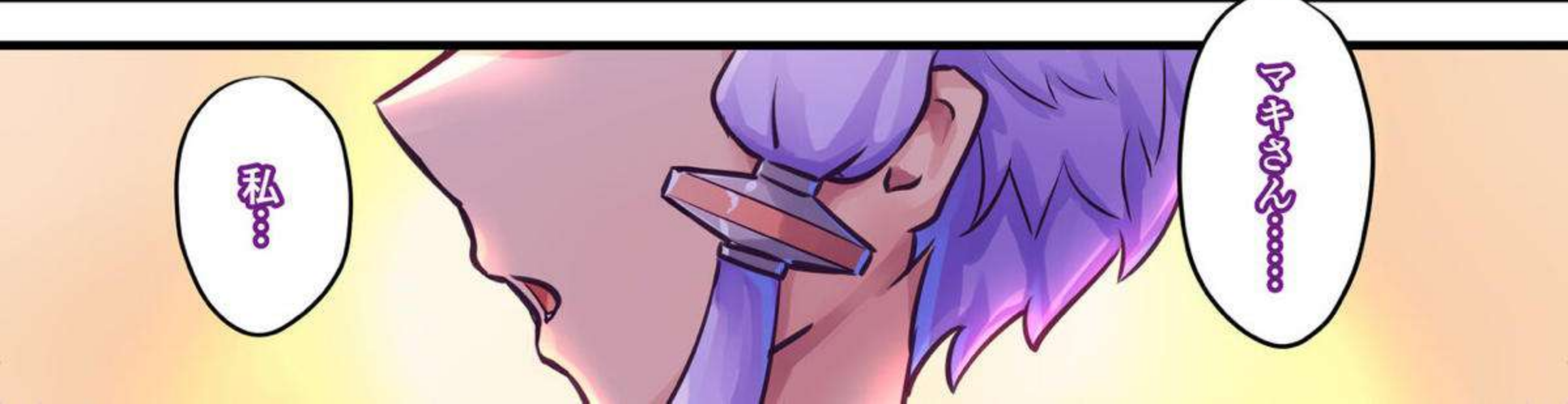
ずっと不確かだった気持ちを

虚構ではな



やっと確信を
持って言えます

やっふ…



マキさん…

私…





あとがき

5年。
この「内在の海」シリーズを描き始めてから丁度5年です。
自分の好きなエロと哲学を燃え尽きるくらい全力で描こう、そういう思いでこのシリーズを描き始めました。

2017年当時はただの理系大学院生であり、ろくに絵の技術も経験もありませんでした。
あったのは想像力とそれを形にしてみたい果てしない熱意です。
それに、今なら思い上がりだったとは分かるのですが、頭の中にあった物が“自分にしか描けない物”だと思い、使命感に似た昂りもありました。

そんな陶酔に溺れ、ゲーム会社に就職する目標を変えて大学院を中退してまで描くことに専念しようと決めたのです。
後悔はしていませんが、今思うと正気の沙汰ではないなとは思いますが(笑)。ただ、だからこそやって良かったとも思っていました。

そんな訳でこのシリーズや創作全般において計り知れない程の原動力があり、シリーズ一作目である「ゆかマキSwitch」を描いている頃にはシリーズの結末も思い描いていました。

とは言っても、実は二作目「Split Spirit」の次が超大編で完結編という構想でした。
ところが描きたいネタが次々と出て来て様々なテーマに挑戦したり色々な手法に挑戦したりして作品が増えていったのです。

そうして作品数と時間が積み重なっていく内に、自分の野望が実力に見合っていない事を痛いほど分からされました。

上手いかない事や悩み苦しんだ事も沢山あり、絵で飯を食っていく未来も見えず、自分には合っていない気がして何度筆を折ろうと思ったか分かりません。

それでも描きたくて、描く事が好きで、身体を引きずるような思いで描き続けました。

今作「i」は、その5年という時を経て、構想の根幹を残しつつも細部は変化・進化した作品であり、間違いなく4、5年前には描けない作品でした。

お世辞にも完璧な作品・シリーズではない事は分かっているのですが、波瀾万丈だった5年を乗り切り描き切れたことに夏の終わりに聞くコオロギの鳴き声のような寂しさと達成感とワクワク感があります。

これを読んでいる皆さんの(願わくば賢者タイムに入っている)心に少しこの気持ち込みていたら、なんて…w

長々と身の上話や思い入れを語ってしまいましたが、こんなあとがきも含めて本作、そして本シリーズを読んでくださり、本当にありがとうございました。

楽しんでくれた事の感想や改善点などの指摘も全部「次はもっといい作品を作るぞ」という糧にしていました。

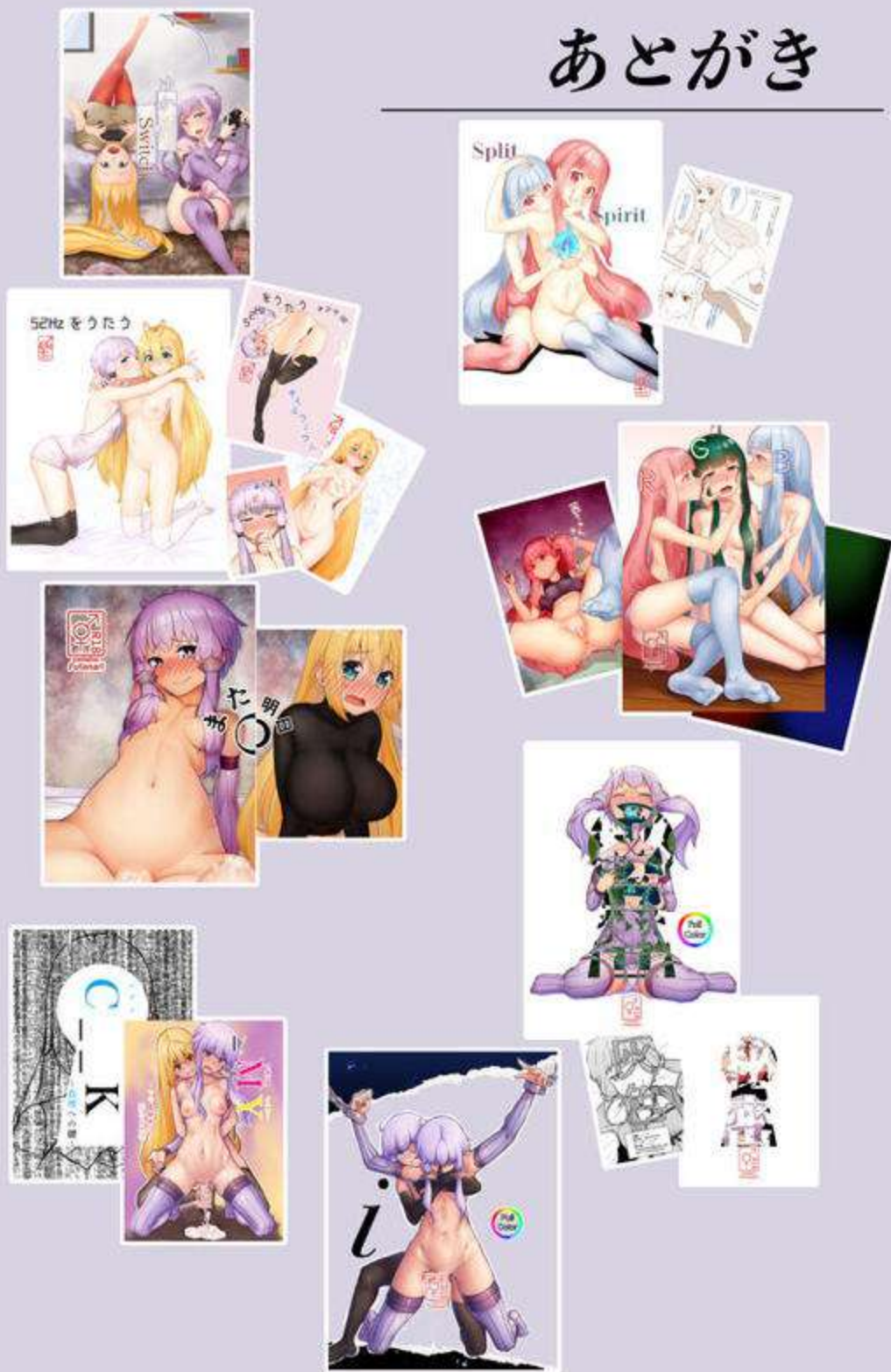
「内在の海」シリーズの本編は一応これで終わりでポイロ界限も変化してはいますが、やはりゆかりさんのデザインが好きですしポイロも好きなので、またもっと熱が出て何か描くかもしれません。

それでも、いつまでもポイロ界限、ひいては二次創作という巨人の力に甘えたくないのが本音であり、自分の足でちゃんと立って歩きたいと思っています。

だからこれからはオリジナルに力を入れていくつもりです。

いつになるかは分かりませんが、いつか自分の作品で誰かの心を動かし、そしてまたこうやってしみじみと胸の内を語れるように頑張りたいと思います。

ニツチ



$$z \in \mathbb{C}$$

$$a, b \in \mathbb{R}$$

$$z = a + bi$$



$$e^{i\pi} = -1$$